

共同研究プロジェクト

ロボット・人間学研究： 情報工学と人間学の接点を探る

2014年度活動報告

高石 浩一・永澤 哲

本年度は本プロジェクトの活動最終年次にあたるため、2015年2月25日に活動の総括となるシンポジウム「今あえて、『攻殻機動隊』を語ろう！」を京都文教大学弘誓館にて実施した。時期的な制約もあり、当シンポジウムの実施内容の逐語録については、次年度の本誌に掲載予定とさせていただく。

以下は各メンバーによる研究活動の報告である。

＜永澤哲・総合社会学部准教授＞

①ブレイン・マシン・インターフェース、ロボット倫理（主に戦闘型ロボット）、強いAIについての文献研究、理論的考察を行った。近年のロボット開発は、生物の進化プロセスから大きなヒントを得ながら進んでいる。一方、ロボットについては、主に戦闘用ロボットに兵士が強い連帯感情を抱くようになることが報告されている。これらの事実の背景には、人間の精神の基層にあるアニミズムが存在すると考えられ、その意味で、ロボットと人間の未来は、アニミズムの評価に深くかかわっている。『攻殻機動隊』の世界像が、神道やさらにそれよりも深い縄文＝アイヌ的な世界像を意識して作られているのも、この点から理解できる。AIについては、それとは異質な点がある。AIは、いわば「身体なき身体」、ヴァーチャルな身体を持ち、乱交的なジャンクション形成を生み出す点に特徴がある。こうした特徴が、その「意識」の進化にどのような影響をもたらすのか、主に文献をつうじて研究、考察した。

②現代資本主義の進展は、機械技術の発達とともに、「ヴァーチャル・ノマド」（アタリ）を解体する方向に進みつつある。その背後には、階級社会の徹底化がある。だが、この傾向は、すでに封建制社会の解体と機械制大工業、資本主義の形成過程においても、存在していたと考えられる。こうした資本主義と機械文明の関連について、主に政治経済学の観点から、研究を行った。

＜高石浩一・臨床心理学部教授＞

攻殻機動隊が提起するテーマは、近年の心理臨床課題との間で、興味深い並行性が見られる。一つは再生産＝妊娠、出産の問題、一つは義体化＝移植の問題、そうして老化＝介護の問題である。

①まずロボットという言葉の生みの親、カレル・チャペックの『ロボット R.U.R.』が提起しているテーマ、すなわち再生産＝妊娠、出産について考察した。彼の小説では、人類を殲滅したロボットたちは、再生産の手段を得ようと躍起になる。次世代を生むことこそ、生物である証なのか・・・これは不妊治療のみならず、性的マイノリティを対象とした臨床心理士が現在、直面している課題である。

②身体性との関連で言うと、義体化は移植の問題と不可分で、特に免疫機能の問題をはらんでいる。自己と異物（他者）について、心臓移植を経験した哲学者、ジャン＝リュック・ナンシーが『侵入者』の名のもとに、自らの身体に「他者」を取り込むことについて、興味深い思索を

めぐらせている。

③攻殻機動隊 SAC.SSS では、完全に機械化された介護システムに繋がれて生かされている老人が描かれている。そこにおける死は必然なのか権利なのか。難病支援の現場体験から考察した。

さらには、アイデンティティ＝記憶なのか、人は情報に過ぎないという観点に立てば、身体を持たずネット上の存在になった傀儡子は究極の不死の形態ではないのか、そこにおいて個は存立しえるのか？といった問題についても考察しシンポジウムで報告した。

<野村竜也・龍谷大学理工学部教授 ※客員研究員>

今年度の研究課題に関連して以下の成果を発表した。

1. ロボットに対する否定的態度と家族関係の認知・宗教へのコミット度合との関連についての日英比較質問紙調査

T. Nomura, Comparison on Negative Attitude toward Robots and Related Factors between Japan and the UK, Proc. 5th ACM International Conference on Collaboration Across Boundaries (CABS): Culture, Distance and Technology, pp.87-90, 2014

2. ロボット見聞経験が否定的態度に及ぼす影響の質問紙調査

T. Nomura, Influences of Experiences of Robots into Negative Attitudes toward Robots, Proc. 23rd IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2014), pp.460-464, 2014.

3. Rapport-Expectation with a Robot Scale (RERS) と場面想定法を用いたロボットとの関係性期待と文脈の関連の検証

T. Nomura and T. Kanda, Differences of Expectation of Rapport with Robots Dependent on Situations, Proc. 2nd International Conference on Human-Agent Interaction (HAI 2014), pp.383-389, 2014.

4. ロボットの視線および評価文脈が高評価懸念者の対ロボット対話に与える影響の実験的検証

T. Nomura and T. Kanda, Influences of Evaluation and Gaze from a Robot and Humans' Fear of Negative Evaluation on Their Preferences of the Robot, International Journal of Social Robotics, 2014. DOI: 10.1007/s12369-014-0270-y

5. その他、ロボット倫理に関するワークショップにて招待講演

<http://hrilab.tufts.edu/robotethics14.html>

なお、「今あえて、『攻殻機動隊』を語ろう！」シンポジウムにおいては、Technophobia（技術恐怖症）の観点から、ロボットと人間が共存する社会が実際に到来するかどうかについて議論。その際、一見技術的に高度化した社会である「甲殻機動隊」の世界においてさえも、全ての人が高度化技術を受け入れているわけではないことを示す幾つかのシーンに言及。また、昨今話題の「シンギュラリティ」についても触れた。